



氏名 木村佳記

年齢 43

所属 大阪大学医学部附属病院

立候補の趣旨

私は理学療法士免許の取得（2000年）から現在まで、一貫してスポーツ理学療法の臨床と研究に携わっています。主にスポーツ外傷術後の理学療法に関わり、競争的資金を基盤に（2010～2020年）医工連携による学際的研究や国際学会での発表にも努め、科学的知見の臨床実践を継続しています。また、当初国内では情報の少なかった半月板・軟骨修復術や再生医療の理学療法を実践・紹介してきました。一方で、個人や小規模な研究チームで構築できるエビデンスの限界にも直面してきました。このため、本学会が学術団体として取り組む教育・研究推進活動は極めて重要であると感じています。

スポーツ現場では、全国高校野球大会や国際試合を含むテニス大会のサポートにて、スポーツ医科学の知見を現場で実践する経験を積んできました。昨年、東京オリンピックでは選手村で理学療法業務に参加し、多職種のチームで高水準の医療を円滑に提供する運営を目の当たりにして感激しました。これらの経験から、日本のスポーツ理学療法における科学・実践力の発展に寄与したいと強く感じています。

本学会は現在、学術団体としての基盤を固める時期にあり、学際的研究、国際的活動、臨床と研究水準の向上、そして社会への還元といった多くの継続的課題に更なるエネルギーが必要と考えます。初めての立候補ですが、本学会の発展やスポーツ理学療法を通じた社会貢献に向けて尽力したいと存じます。

- ・最近の競争的資金による研究：膝関節外傷と障害の予防法開発に向けた荷重下水平方向の下肢筋力評価と強化法の開発（基盤研究B；2017～2020）研究代表者
- ・臨床研究：膝関節スポーツ傷害に対する関節鏡視下手術後のリハビリテーションにおける運動機能の評価（大阪大学医学部附属病院；2015～2025）研究責任者

役員歴

社会活動

2000年～ （社）アスリートケア（旧スポーツ傷害理学療法研究会）
2013年～ 関西テニス協会医科学委員
2017～2019年 日本スポーツ理学療法学会学術集会実施部会部員
2021年 日本スポーツ理学療法学会 理学療法標準化検討委員会 委員



氏名 岡戸敦男

年齢 49

所属 トヨタ自動車株式会社リコンディ
ショニングセンター

立候補の趣旨

私は、日本理学療法士協会における日本スポーツ理学療法学会の運営幹事、一般社団法人日本スポーツ理学療法学会の理事などを務めて参りました。また、昨年12月に開催した第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会では学術大会長を務めさせていただきました。これまでの経験を活かして引き続き学会運営に貢献したいと考えます。

当学会は法人化したことで、学術活動をより一層推進し、質の高いスポーツ理学療法に関する情報を社会へ発信していく責務があると考えます。そのためには、我が国のスポーツ理学療法を発展すべく当学会の方向性を議論すること、関係職種やスポーツ関連団体等との学術的交流や連携、協働等を積極的に実施することが重要と考え、取り組んでいきたいと思います。

会員の皆様とともに当学会の活動をより一層活発にし、スポーツ理学療法の実現に引き続き貢献したく立候補いたしました。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

役員歴

- ・ 日本スポーツ理学療法学会
： 運営幹事（2013年～2019年）、副代表運営幹事（2019年～2021年）
- ・ （一社）日本スポーツ理学療法学会：理事（2021年～）
- ・ 第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会：準備委員長（2018年）
- ・ 第7回日本スポーツ理学療法学会学術大会：副学術大会長（2021年）
- ・ 第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会：学術大会長（2021年）
- ・ 2020オリ・パラ理学療法育成検討小委員会：委員（2017年～2019年）
- ・ 認定理学療法士（スポーツ理学療法）、専門理学療法士（運動器）、修士（教育学）



氏名 小山貴之

年齢 44

所属 日本大学文理学部

立候補の趣旨

これまで日本大学病院にて11年間、日本大学文理学部体育学科にて12年間、スポーツ理学療法とスポーツ科学・体育領域の教育・研究活動に努めてきました。2019-2020年度の本学会運営幹事では、企画担当および研究推進委員として他学会との連携シンポジウムやコロナ禍における会員向け講義動画の企画などに携わり、学会運営について多くの経験をさせていただきました。現在は理学療法標準化検討委員会の委員長として、スポーツ理学療法で代表的な疾患となる前十字靭帯損傷、足関節捻挫、投球障害の理学療法評価を標準化する事業を取りまとめております。

オリンピック・パラリンピックでの理学療法士の活躍や本学会の法人化など、昨年はスポーツ理学療法への多くの期待や関心の高まりを感じる1年でした。特に、オリンピック・パラリンピック活動で構築できたスポーツ理学療法士のネットワークは、今後の本学会の根幹となると確信しております。この機運やレガシーを継承し、本学会が学術的に質の高い学術団体として成熟できるように貢献したいと考えております。会員の皆さまのニーズに答えていくだけでなく、社会的にも「見える」活動のできる学会となることを目指しております。そのためにも、理事の立場から各事業で多くの会員の方に関わっていただき、開かれた学会として課題や成果を共有し、将来のスポーツ理学療法に繋がる道程を共に歩んでいければと考えております。

役員歴

- ・日本スポーツ理学療法学会運営幹事（2019-2020年度）
- ・日本スポーツ理学療法学会理学療法標準化検討委員会委員長（2021年度～）
- ・第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員長
- ・日本スポーツ理学療法学会学術大会実施部会部員（2017-18年度）
- ・第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会会場部長
- ・日本理学療法士協会ガイドライン用語・策定委員会・作成班（足関節捻挫）
- ・日本理学療法士協会主催スポーツ理学療法研修会講師（基礎・応用）
- ・東京都理学療法士協会研究推進部部長（2011年～現在）



氏名	古後晴基
年齢	56
所属	西九州大学 リハビリテーション学部

立候補の趣旨

日本スポーツ理学療法学会の理事に立候補致しました古後晴基と申します。
1987年に理学療法士になって臨床17年、教育・研究分野18年になります。
現在、私は西九州大学に所属し、スポーツ分野の研究は成長期疾患に取り組んでいます。
研究テーマは、臨床で明らかにしたいと考えていたことを中心に研究に行っております。
私自身もオスグッドシュラッター病になった経験があるからです。研究を行う理由は、
名称独占のみの国家資格である理学療法士を発展させたいとも考えているからです。
このたび、日本理学療法学会連合の法人学会・研究会が発足するにあたって、
日本スポーツ理学療法学会の発展に微力ではありますが貢献したいと思い、
理事に立候補しようと決意致しました。
ご支援賜ります様、お願い申し上げます。

役員歴



氏名 宮下浩二

年齢 52

所属 中部大学

立候補の趣旨

私のスポーツ理学療法への関わりは、スポーツ専門機関の理学療法士、プロ野球球団のメディカルスタッフ、大学・大学院の教員といった様々な立場で30年間にわたります。現在は所属大学の硬式野球部部長としてもマネジメント業務と並行して選手への理学療法を実践しています。地域貢献として高校生のスポーツ障害予防指導も行っています。医療、スポーツ、教育、予防・健康増進から、研究・学術活動を継続してきました。

このような活動の中、スポーツに関わる理学療法士のみならず、医師やアスレティックトレーナーなど他の関係職種や、スポーツ科学研究者、コーチ等と連携し、様々な議論を重ねてきました。これらを通じて、「これからのスポーツ理学療法」が学術的にも果たすべき役割、課題への考えを深めてきました。理事として今後の学会運営に関わることにより、スポーツ理学療法の学術的、社会的発展に貢献したいと考え、立候補いたしました。皆様のご支援をお願い申し上げます。

役員歴

日本スポーツ理学療法学会

- ・評議員 2021. 8～現在
- ・ガイドライン委員会委員長 2021. 7. 5～現在
- ・ガイドライン・用語策定委員会投球障害作成班班員 2019. 6. 9～2021. 6
- ・日本理学療法学会連合編集委員会査読委員 2019. 6. 9～現在

日本理学療法士協会

- ・オリ・パラ理学療法育成検討小委員会委員 2017. 5～2019. 6
- ・オリ・パラレガシー編集作業部会部会員 2021. 6. 6～現在

他学会

- ・日本肩の運動機能研究会世話人 2020～現在
- ・日本野球科学研究会運営委員（学術） 2018～現在
- ・日本アスレティックトレーニング学会代議員 2016. 4～現在

専門理学療法士：運動器理学療法 認定理学療法士：スポーツ理学療法



氏名 中川和昌

年齢 43

所属 高崎健康福祉大学

立候補の趣旨

約1年間、本学会の運営幹事～理事を務めさせて頂き、日本のスポーツ理学療法の方向性、本学会の役割や今後の課題を感じて参りました。法人化した本学会と同じく、私自身の役割もまだまだ走り始めたばかりの段階ですので、再度立候補させて頂きました。微力ながらも引き続き、本学会を盛り上げるために邁進させて頂ければと思います。現在担当理事を務めさせて頂いている「スポーツ理学療法における標準化の検討」という大きな課題に加え、世界基準に合わせた教育体制の構築、日本スポーツ理学療法の学術的立場の推進といった課題に関して、Global (Global+Local) な視点で取り組んで行ければと思います。

これまでの日本スポーツ理学療法の礎を築き上げてこられた先人達の経験・知恵をお借りしながら、これからの会員の皆様と力を合わせて、新しいチャレンジに取り組むことが出来ればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

役員歴

2015年 日本スポーツ理学療法学会 学術集会実施部会 部員
2018年 オリ・パラ対策スポーツ理学療法研修会講師
2018年～ 日本理学療法士協会 スポーツ支援推進委員会 運営担当者（群馬県）
2019年～ 群馬県理学療法士協会 地域局スポーツ推進部 部員
2021年～ 日本スポーツ理学療法学会 理事（理学療法標準化検討委員会 担当理事）
2021年～ スポーツ推進理学療法の全国展開・推進運営部会 部員
<資格・免許等>
専門理学療法士（運動器，生活環境支援），認定理学療法士（スポーツ，学校教育）
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
日本障がい者スポーツ協会中級障がい者スポーツ指導員
学位：博士（保健学）



氏名 鈴木仁人

年齢 46

所属 横浜市スポーツ医科学センター

立候補の趣旨

日本スポーツ理学療法学会では2017年より運営幹事として学会運営に従事し、2021年からは副理事長として会の運営に携わってきました。副理事長としては、本学会の法人化に向けた作業の一端を担い、法人化後は財務担当理事として、他の理事の方々とともに円滑な会の運営に尽力しております。

一般社団法人として二期目となる今回は、新たな取り組みを形にしていくことに注力したいと考えます。そのためには財務基盤の安定化が必要であり、新たな学術事業の実施も検討してまいります。そして、スポーツ理学療法を学術的に追求し、各種機関や団体との連携で学会のプレゼンスを高め、全国の幅広い年代のスポーツ理学療法士に支持される組織になるように精進いたします。

役員歴

【本学会】	
2015～2016年	日本スポーツ理学療法学会総務部会 部員
2017～2020年	日本スポーツ理学療法学会 運営幹事
2017～2018年	第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会 広報・渉外部長
2018～2019年	第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員長
2020～2021年	第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員長
2021～2022年	日本スポーツ理学療法学会 副理事長
2021～2022年	第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会 財務部門副部門長
【協会・士会】	
2017～2019年	日本理学療法士協会スポーツ支援推進執行委員会小委員会 委員
2019～2022年	日本理学療法士協会 代議員
2005～2018年	神奈川県理学療法士会社会局スポーツ支援部 部員
2016～2020年	神奈川県理学療法士会東京オリ・パラ準備委員会 委員
2019～2020年	神奈川県理学療法士会 理事
2021～2022年	神奈川県理学療法士会東京オリ・パラ準備委員会 委員長
2021～2022年	神奈川県理学療法士会 常任理事



氏名 相澤純也

年齢 44

所属 順天堂大学

立候補の趣旨

皆様にご理解頂き今回の選挙で当選が叶えば、3期目・現職としての経験、ビジョン、ネットワークを最大限に生かし、スポーツ理学療法学分野で地道に活動をされている会員の皆様が「専門職チームで社会貢献ができるプラットフォーム」を目指し公平公正に法人学会を運営してまいります。具体的には下記課題に焦点をあて、スポーツ理学療法に関する活動支援や環境改善を推進してまいります。また、学会の持続発展可能性を重視し、後進の方々に「引き継ぎたい、引き継ぐべき」と思ってもらえる組織・システム、土壌づくりを進めてまいります。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

1. 国際スポーツ理学療法連盟「11competencies」の科学的探究、教育、臨床、実践の推進
2. 情報戦略・IR委員会によるデータ可視化と中長期目標設定・評価による政策提言
3. 国際認定スポーツ理学療法士（仮称）資格の導入加速
4. 関連主要団体との連携強化による学術・社会活動の推進
5. 役員基準の明確化と、若手人材の積極登用
6. 日本学術会議協力学術研究団体への可及的早期登録

役員歴

2011-2013	日本理学療法士協会運動器理学療法研究部会運営幹事
2017-2021	日本スポーツ理学療法学会運営幹事（2019より常任）
2018	第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員・総務部長
2019-2020	第6回学術日本スポーツ理学療法学会大会準備委員・学術部長
2019-2021	第7回学術日本スポーツ理学療法学会大会準備委員・演題部長
2020-2021	第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会副学術大会長
2021-現在	第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会学術大会長
2021-現在	一般社団法人日本スポーツ理学療法学会理事長
2021-現在	一般社団法人日本理学療法学会連合理事（研究倫理・学術安全）
【現職】	順天堂大学先任准教授／東京都立大学大学院客員准教授／東京医科歯科大学大学院非常勤講師／公益財団法人日本オリンピック委員会医・科学スタッフ



氏名 瀧口耕平

年齢 43

所属 神戸大学医学部附属病院

立候補の趣旨

私はこれまで18年間スポーツ整形外科医のもとで、スポーツ外傷に対する治療を医師、コメディカルと共に行ってまいりました。また育成年代のスポーツ現場で応急処置から競技復帰、コンディション、外傷予防に関わってまいりました。2019年度より日本スポーツ理学療法学会運営理事として、法人化という当学会としての大きな転換期にその重要性和必要性を感じながら微力ながら活動させていただきました。今後スポーツ理学療法を発展させ次世代に繋いでいくためにも、当学会が国内外問わず他分野の学会と同等の地位を築き、連携していくことが必要であると考えております。

分科学会で2期運営幹事を務めさせていただいた経験を活かし、当学会が法人化により更なる発展を遂げるための活動に貢献したいと思い、理事に立候補させていただきました。また、臨床現場で働く者として、臨床からの学術活動に対する意見も当学会活動に反映させていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

関連資格、学位：学士（保健学）、認定理学療法士（スポーツ）、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

役員歴

2013年度～ 兵庫県理学療法士会スポーツ活動支援部部員
2017年度～ 日本スポーツ理学療法学会学術集会実施部会部員
2019年度～ 日本スポーツ理学療法学会 運営幹事
2020年度 第7回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員長



氏名	赤坂清和
年齢	55
所属	埼玉医科大学 保健医療学部理学療法学科

立候補の趣旨

理学療法士の学術活動を発展させることは、臨床における患者様の治療に応用されるだけでなく、将来的な理学療法士の身分や権利など医療や教育などの仕組みに大きく影響を与えると考えています。2013年日本スポーツ理学療法学会の設立以降、運営幹事として活動し、2021年日本スポーツ理学療法学会が法人化してからも理事を務めています。これまでの主な活動は、2015年にはスイスBernにて開催された第1回国際スポーツ理学療法連盟学会、2017年に北アイルランドBelfastでの第2回学会、2019年にカナダVancouverの第3回学会に、演題を持参し、総会にも参加し、日本各地から集まった参加者や各国の代表と意見交換して参りました。また、2021年の東京オリンピック・パラリンピックの準備として、IFSP T役員との折衝や協会主催の研修会にて講師を務め、オリンピックではボート競技と選手村、パラリンピックでは選手村で活動させていただきました。

今後は、米国留学や海外での学会参加、海外での理学療法士養成教育及び臨床施設や研究施設との交流活動で得た知識やネットワークを駆使して、国際標準の理学療法に到達するために、日本における臨床と教育、そして学術の連携を強化するために、その架け橋となる役割を果たしていこうと考えています。また、昨年秋に完成した理学療法ガイドラインでは、ガイドライン全体の取りまとめ役を務めました。これまで以上に会員各位に活用されるガイドラインとなり、理学療法に関連する医師や他の医療職などからも評価されるように継続して努力していきます。

役員歴

埼玉県理学療法士会（理事〔H13年度以降12年間〕）、日本理学療法士協会代議員
2013年 日本スポーツ理学療法学会運営幹事（設立より2020年度まで）
2015年 ガイドライン用語・策定委員会（2016～2020年度委員長）
2015年 第1回IFSP T（Bern、総会参加）
2017年 第2回IFSP T（Belfast、総会参加）
2019年 第3回IFSP T（Vancouver、総会参加）
2021年 日本スポーツ理学療法学会理事、ガイドライン部会長



氏名 寒川美奈

年齢 52

所属 北海道大学大学院保健科学研究所

立候補の趣旨

日本スポーツ理学療法学会では、2019年より運営幹事として学会運営に参画しています。今期は本学会副理事長を拝命し、学会法人化に向けての準備ならびに法人化後の運営に携わってきました。また、国際担当理事として国際スポーツ理学療法連盟との連携活動や情報を、本学会ホームページやSNSを通じて会員の皆様へ発信してきました。昨年は、多くの皆様にも協力いただき、スポーツ理学療法と傷害予防に関するステートメント制定に向けた共同研究にも参画しています。そして、本学会の大きなミッションである国際認定スポーツ理学療法士の資格導入を目指して、国際委員会委員やワーキンググループメンバーとともに準備を進めています。

法人化によって、本学会はこれまで以上に変革と進化を続けていく必要があります。多職種連携や関連機関とのネットワークの構築、学術的基盤形成が一層大切になっており、会員の皆様の協力が不可欠です。東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、日本の理学療法士の皆様とともに活動し、我々の持つ力や可能性を強く感じました。日本スポーツ理学療法学会の学術的発展にさらなる貢献をさせていただきたく思い、今回立候補いたしました。お力添えどうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

2021年～	日本スポーツ理学療法学会 副理事長（国際担当理事）
2021年～	日本理学療法士協会 スポーツ理学療法の全国展開・推進運営部会員
2019年～2021年	日本スポーツ理学療法学会 常任運営幹事 （国際部会員・女性部会員）
2019年～2021年	日本理学療法士協会スポーツ理学療法研修会 講師 （英会話担当）
2017年～2021年	日本理学療法士協会 オリ・パラ理学療法育成検討小委員会 委員
2016年～2019年	日本スポーツ理学療法学会 国際部会員



氏名 永野康治

年齢 40

所属 日本女子体育大学

立候補の趣旨

本学会の運営幹事を2019年より務めさせていただき、学会法人化後も総務担当理事として活動しております。本学会のさらなる発展に寄与したく、理事に立候補させていただきました。

スポーツ理学療法は医療・医学の一分野であると共に、体育・スポーツ科学とも切り離せない分野であります。スポーツ現場で理学療法士が活躍するためには、コーチやスポーツ科学者とコミュニケーションをとりながら進める必要があります。体育・スポーツ系大学に勤める利点を活かし、スポーツ理学療法とスポーツ科学の橋渡し役を担いたいと考えております。また、スポーツ現場での理学療法士の活動を広げるために、経験のみに頼るのではなく、スポーツ理学療法における科学的基礎の構築や科学的根拠に基づいた実践を目指した研究にも積極的に取り組んでおります。その成果を基に多くの情報を学会員の皆さまに還元することが私の目指すところです。

これまでスポーツ理学療法を築き上げてこられた先生方のご指導をいただきながら、本学会の発展に尽力する所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

役員歴

【協会活動】

日本スポーツ理学療法学会 理事（2021～現在）
日本スポーツ理学療法学会 運営幹事（2019～2021）
第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会 総務副部門長
第8回日本スポーツ理学療法学会学術大会 演題部門長
第7回日本スポーツ理学療法学会学術大会 総務部門長
第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会 渉外部長

【関連資格・学位】

認定理学療法士（スポーツ）
専門理学療法士（運動器）
博士（スポーツ科学）
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー



氏名 前田慶明

年齢 44

所属 広島大学大学院医系科学研究科

立候補の趣旨

この度、日本スポーツ理学療法学会の運営幹事に立候補させていただきます。広島大学の前田慶明でございます。広島大学に所属し、これまで研究活動やパラスポーツの支援に取り組んで参りました。東京2020オリンピック・パラリンピック大会後、パラスポーツを支援する理学療法士の必要性はさらに高くなっています。パラスポーツに対応できる専門知識や医療技術だけでなく、実践的な研究力を有し、国内外への情報発信ができる人財が必要と考えております。

本会は2021年度より法人化され、学術団体として新たに歩み出すことになり、その初年度の研究推進担当運営幹事として関わって参りました。この度、運営幹事に任命された際には、スポーツ理学療法学分野でリーダーシップがとれる人財の育成、国際的な学術活動の推進に貢献できると考えております。スポーツ理学療法の学術的領域としての価値を広げ、エビデンスの構築に努め、その成果を会員の方々に向けて情報発信しく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

- 2021年～現在 日本スポーツ理学療法学会 研究推進担当運営幹事
- 2021年～現在 理学療法学・PTR編集委員会 委員
- 2021年～現在 第9回日本スポーツ理学療法学術大会 準備委員
- 2017年～2020年 日本運動器理学療法学会 研究推進担当運営幹事
- 2019年 2020オリ・パラ理学療法育成検討小委員会 委員
- 2019年 第7回日本運動器理学療法学術大会 準備委員長



氏名 廣幡健二

年齢 38

所属 東京医科歯科大学

立候補の趣旨

現在、大学病院のスポーツ医学に特化した部門専従理学療法士として、日々の業務にあたっております。スポーツチームにも関わりながら、研究機関で勤務する医療スタッフという特性を活かし、「ラボと医療・スポーツ現場の架け橋になる」をモットーに活動してまいりました。部門を管理する立場となつてからは、質の高いスポーツ理学療法サービスを提供しながら、研究活動を継続できるシステムを常に模索しています。まだまだ若輩者でございますが、これまでの経験が少しでもスポーツ選手に関わる理学療法士の活動に役立てばと思ひ立候補させていただきました。引き続き、学会会員の皆様から集まる知見をどのように選手に還元するか、という視点も大切に学会運営に貢献できればと考えます。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

役員歴

2010年～現在 (社) 東京都理学療法士協会 新人教育部部員
2017年～2021年 日本理学療法士協会ガイドライン・用語策定委員会
スポーツ・足関節捻挫システムティックレビュー班班長
2018年 第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員
2019年 第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員
2021年 第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員・運営部門長
2021年～現在 一般社団法人日本スポーツ理学療法学会 理事

●現職:

東京医科歯科大学スポーツ医歯学診療センターアスレティックリハビリテーション部門長
／アルバルク東京非常勤理学療法士／NECレッドロケッツ非常勤理学療法士



氏名 渡邊裕之

年齢 56

所属 学校法人北里研究所

立候補の趣旨

私はスポーツ理学療法の抱える問題として、以下のテーマに取り組んでいきたいと考えております。

1. スポーツ理学療法のエビデンス確立

スポーツ理学療法の対象となるスポーツ選手に対して従来から多くの手技が適応されてきました。しかしながら手技の大部分は十分なエビデンスが確立しておりません。このようなエビデンスの不十分な手技に対して、科学的な根拠をもとに有効性を明らかにしたいと考えております。私はガイドライン委員長としてスポーツ理学療法のエビデンスを明らかにし、スポーツ理学療法の技術や知識の価値を高めていきます。

2. 若手理学療法士のためのスポーツ理学療法のキャリア支援

スポーツ理学療法を実践したいと考えている若い理学療法士は全国に数多く存在します。しかしながらスポーツ選手を対象とする医療機関は少なく、スポーツ理学療法を志す理学療法士のキャリア構築は十分ではありません。近年では高校野球への支援、学校保健、野球肘検診事業などが盛んに行われています。いずれも20年前には考えられない状況です。このように潜在的に埋もれているスポーツ理学療法の活躍の場を開拓し、スポーツ理学療法を実践できる機会を拡大していきます。

私は将来のスポーツ理学療法を担う若手理学療法士が夢を描き、具現化できる魅力ある領域に発展させたいと考えております。

役員歴

2013年	日本スポーツ理学療法学会（分科学会）	運営幹事（2020年まで）
2016年	ガイドライン用語策定委員会	投球障害肩・肘班 班長
2017年	第4回日本スポーツ理学療法学会学術大会	準備委員長
2018年	第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会	副大会長
2019年	第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会	大会長
2021年	一般社団法人日本スポーツ理学療法学会	理事（現在に至る）
2021年	ガイドライン委員会	委員長（現在に至る）



氏名 地神裕史

年齢 42

所属 国士舘大学

立候補の趣旨

私が初めてトレーナーとして水泳の国際大会に帯同したのは2007年でした。その頃はまだスポーツPTというものは確立されていませんでした。トレーナーチームの中でPTとしての立ち振る舞いに苦悩したのを今でも覚えています。その後、オリンピックや世界水泳選手権に帯同する機会をいただきました。これらの活動を通じてスポーツPTとは何かについて、真剣に考えてきました。また、現在、私の研究室に水泳のパラリンピアンが在籍しています。近年ではパラ水泳に関しても医学的・科学的な観点で研究やサポートを行っています。私はこれらの経験を多くのPTと共有し発展させていきたいと思い、立候補しました。諸先生方のご指導を賜りながら、スポーツPTの発展に寄与できればと思っております。

【資格・学位】

博士（医学）、専門理学療法士（基礎理学療法、運動器理学療法）、
日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー

【スポーツ現場活動・役職】

リオオリンピックシンクロナイズドスイミング日本代表トレーナー、
その他、世界水泳選手権やアジア大会などの水泳競技日本代表トレーナー
（公財）JOC強化スタッフ、（公財）日本水泳連盟医事委員、
日本水泳トレーナー会議運営委員（学術研修部長）

【研究活動（科研費採択課題）】

無意識に処理される視覚情報によって生じる生体反応の生理学的解析とスポーツへの応用
骨粗鬆症を予防・改善させるノルディックウォーキング実施方法の開発と介入効果の検証
関節痛を有する高齢者のノルディックウォーキング実施方法の開発と介入効果の検証

役員歴

2021年度～ スポーツ理学療法学会 評議員
2021年 日本理学療法士協会 eラーニング 「スポーツ障害の理学療法Ⅱ」講師
2022年 第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会 運営部門 副部長



氏名 佐藤正裕

年齢 41

所属 八王子スポーツ整形外科

立候補の趣旨

このたび、日本スポーツ理学療法学会の理事選挙に立候補させていただきます。2019年より日本スポーツ理学療法学会の運営幹事、2021年の学会法人化より理事を務めさせていただいておりました。これまでの活動では、広報担当として学会ホームページや公式Facebookページ運営、メルマガ配信等に從事してまいりました。

日本のスポーツ理学療法の学術的発展のためには、国際的な情報共有とともに、より多くの理学療法士が多施設連携になかでスポーツ理学療法の標準化に向けてエビデンスを高めていく必要があります。そのためには、法人学会となつて、より活動の自由度の増した本学会が、日本全国のスポーツに関わる理学療法士のための学術団体として取り組める基盤とならなければいけません。今回の選挙で再度、理事の任をさせていただく機会を得ましたら、これまでの経験を活かし、これからを担う会員の皆様との情報共有、そして意見交換の礎となれるよう努める所存です。何卒よろしくお願ひいたします。

役員歴

日本スポーツ理学療法学会 運営幹事 (2019~2020)
一般社団法人 日本スポーツ理学療法学会 理事 (2021~現在)
第5回 日本スポーツ理学療法学会学術大会 広報部門部員
第6回, 第7回, 第8回 日本スポーツ理学療法学会学術大会 広報部門部門長
第9回 日本スポーツ理学療法学会学術大会 広報部門副部門長



氏名 小林寛和

年齢 56

所属 日本福祉大学

立候補の趣旨

日本スポーツ理学療法学会は、大きな変化を遂げた今期でした。法人化もなされ、次に向け、新たな確実な歩みをはじめています。スポーツ医科学に関係する業界も大きく変革していくであろう今後の数年間、本学会に求められる役割と期待は、益々高まっていくことは間違いありません。次の任期には、今後の安定した基盤をもった学会活動推進のために、対応すべき課題も少なからずあります。私は、理事の職務を引き続き担うことにより、本学会における自身の活動経験を活かして学会の発展に寄与したく、立候補をいたしました。心新たに、皆様と力を合わせて、学会の将来に向けて活動を続けていきたく、ご支援をよろしくお願いいたします。

役員歴

- ・日本スポーツ理学療法学会（2013年～）
代表運営幹事（～2019年）
理事（2021年～）
第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会・大会長（2018年）
- ・日本理学療法士協会オリ・パラ関係委員会（2015年～）
オリ・パラ対策小委員会委員長等（～2021年）
オリ・パラレガシー編集作業部会部会長（2021年～）
- ・日本アスレティックトレーニング学会
副代表理事（2012年～）
- ・日本スポーツ協会指導者育成専門委員会アスレティックトレーナー部会
副部会長（2017年～）



氏名 田村耕一郎

年齢 46

所属 広瀬医院 リハビリテーション部

立候補の趣旨

日本スポーツ理学療法学会定款において、「この法人はスポーツ理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とする。」と記されています。この通り、日本スポーツ理学療法学会の「あるべき姿」は、学術活動を推進することと、その内容を社会に還元することの2点であると言えるのではないのでしょうか。

学会組織が整備された今、この「あるべき姿」の実現に向けて、到達目標・指標を掲げ、期間を定めて活動していくことが次期理事の役割と考えています。

このような行動プランの策定には、まず、様々な視点からの現状認識が必要です。次に「あるべき姿」と現状認識のギャップを課題として捉え、優先順位に沿って到達目標・指標を定め、学会として重点的に取り組む施策を定めていきたいと考えます。

しかしながら、「あるべき姿」は決して学会本位ではなく、「会員にとって」また「社会にとって」も「あるべき姿」でなくては意味がありません。そのためには、学会員や社会の声に耳を傾ける必要があります。日本全国で活動されている先生方のお声とお力、お知恵を結集し、本学会の未来を一緒に作り上げられたらと思います。是非、その役割に関わらせていただきたく立候補いたしました。皆様のご支援を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

役員歴

資格：

修士（体育学）、スポーツ理学療法認定理学療法士、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナー

活動：

日本スポーツ理学療法学会運営幹事（2015～2018）

茨城県アスレティックトレーナー協議会運営幹事（2012～）

茨城県理学療法士会スポーツ支援事業部員（2016～）

一般社団法人日本スポーツ理学療法学会理事（2021～）



氏名 村上憲治

年齢 60

所属 帝京科学大学

立候補の趣旨

東京2020大会を通して日本理学療法士協会の活動は世界的に賞賛をされました。日本理学療法士協会はその“レガシー”を伝承することは重要であると考えています。私はヨーロッパを中心にスポーツ現場やスポーツクリニックに従事している理学療法士の業務の見学や研修を通して交流をしてきましたが、その中で感じたことは「日本の理学療法士のレベルは、決して他と引けをとらない」ということです。今まで先人の方々が築きあげてきた日本のスポーツ理学療法の基盤自体は現場や臨床ではすでにそのレベルにあると感じています。そのためにやるべき事は、東京2020大会の”レガシー“の伝承とともに日本のスポーツ理学療法の基盤を再検証し再構築し教育システムとして世界基準に早急に準拠させることが重要と考えます。それが、我々が後生に繋ぐ本当の”レガシー“と私は考えます。さらに教育システムだけではなく人的な交流のグローバル化も目指すことを推奨できるシステムの構築も達成したいと考えています。特に他職種との連携の強化、特に医師や指導者との連携を計れること、共通認識を持つことは重要と考えそれを推進していきたいと考えています。さらに傷害予防にもさらに積極的に取り組みたいと考えています。特に子どもに対しての傷害予防は将来的な運動器障害の予防にも繋がると考えています。そのためには子ども達に対する傷害予防教育への積極的な介入も推奨していきたいと考えています。これらの構築を後生に繋ぐことを”チーム“として達成したいと考え立候補いたします。

役員歴

2011～2014 栃木県理学療法士協会メディカルサポート部部长
2012～2016 栃木県スポーツ協会公認アスレティックトレーナー連絡協議会会長
2010～ 栃木県サッカー協会メディカルサポート部部长
2016 7th Asia Conference on Kinesiology
in 2016 Sports Rehabilitation シンポジウム座長

【学位・資格】

学位 博士（スポーツ医学）、認定理学療法士（スポーツ）
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、FIFA Diploma



氏名 小泉圭介

年齢 51

所属 東都大学

立候補の趣旨

スポーツ競技現場では、他職種との連携が不可欠です。その中で、我々理学療法士はスポーツ分野における専門性・独自性の確立を進める必要があります。そのためには、学術・競技現場と様々な分野で活動している理学療法士が連携し、知識と経験を学術的に更に発展させ、競技現場の要請により一層応えられるようなスポーツ理学療法を構築しなければならぬと考えています。

また、国際大会で活動した経験から、本邦の理学療法士は海外の理学療法士に知識技術共に引けを取るものではないと感じていますが、これは個人の努力と力量によるところが大きく、国際標準に則った教育システムの構築が後進の育成において急務と考えています。今後、理学療法士は医療や介護の領域のみならず、競技スポーツや健康産業など更に職域拡大を進める必要があります。オリンピック・パラリンピックでの活動経験を活かし、これらの課題解決に取り組んでいきたいと考え立候補いたします。

役員歴

【経歴】

国立スポーツ科学センタースポーツ医学研究部（2006～2012）
日本スポーツ振興センターマルチサポート事業競泳専任スタッフ（2013～2016）
日本パラリンピック委員会水泳専任スタッフ（2017～）
東都大学幕張ヒューマンケア学部理学療法学科専任講師（2020～）

【資格等】

・認定理学療法士（スポーツ）
・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
・日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナー
・修士（スポーツ科学）
ロンドンオリンピック日本選手団水泳トレーナー（2012）
リオデジャネイロパラリンピック日本選手団水泳トレーナー（2016）
東京オリンピック・パラリンピック日本選手団競泳トレーナー（2021）